

経営比較分析表（令和4年度決算）

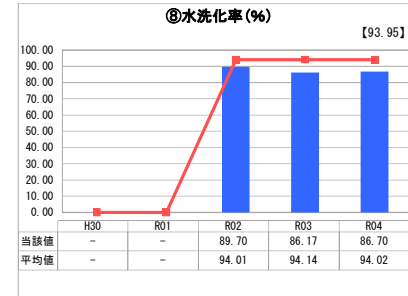
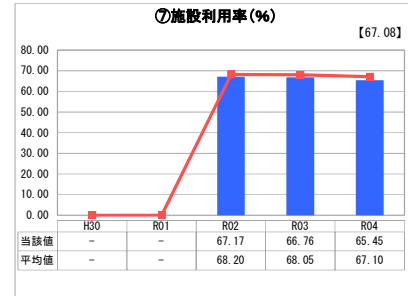
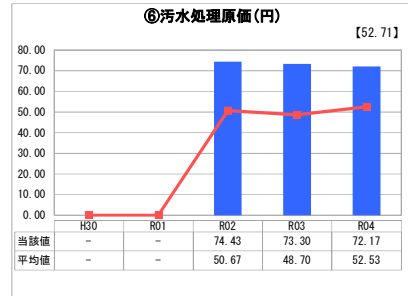
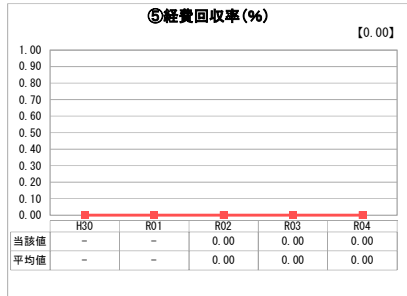
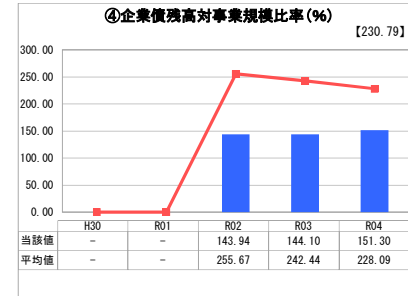
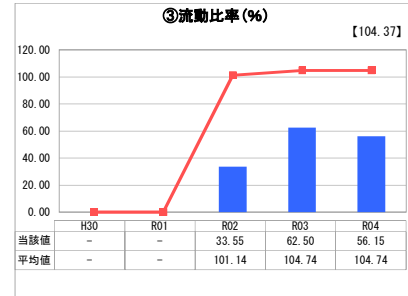
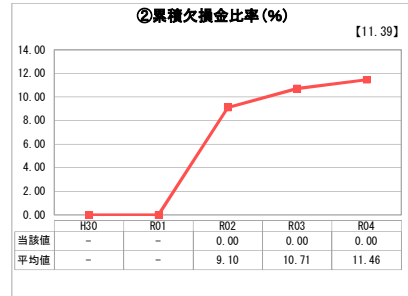
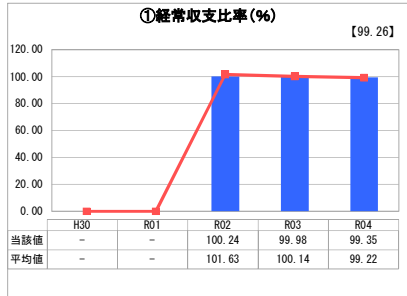
香川県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	流域下水道	E1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	89.71	43.26	100.00	0

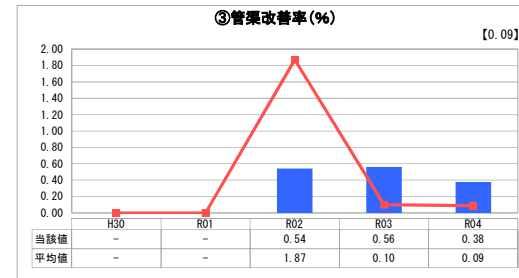
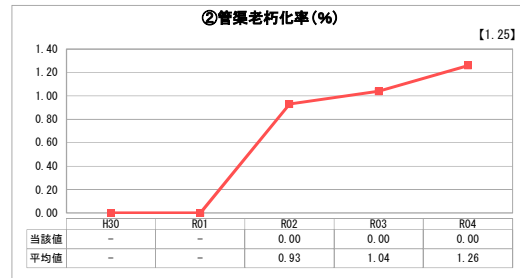
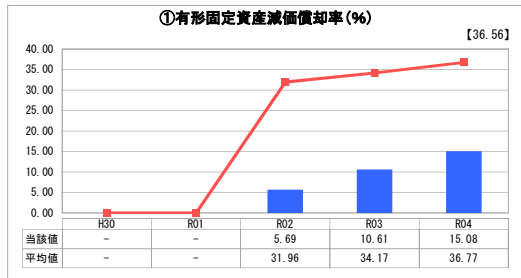
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
956,787	1,876.87	509.78
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
85,893	37.29	2,303.38

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
収支不足の一部を補うため、一般会計からの繰入金金を充てているため、ほぼ100%となっている。維持管理費の削減とともに、流域関連市町からの負担単価を適正な水準に見直す必要がある。
 - ②累積欠損金比率
累積欠損金は発生していない。
 - ③流動比率
流動負債の多くを占める企業債の償還財源を当年度に収入しているため、100%を下回っている。
 - ④企業債残高対事業規模比率
類似団体の平均値を下回っており、今後は減少する見込みである。
 - ⑤経費回収率
使用料収入がないため、0%となっている。
 - ⑥汚水処理原価
やや低下傾向にあるが、類似団体の平均値を上回っており、今後、物価高騰に伴う上昇が懸念される。新たな設備投資は、流入汚水量の将来予測を見極める必要がある。
 - ⑦施設利用率
類似団体の平均値と同水準であり、適切な規模で施設を稼働している。今後も同程度の水準で推移する見込みである。
 - ⑧水洗化率
流域下水道に接続している関連市町の公共下水道の数値が反映されている。類似団体の平均値をやや下回っているため、関連市町と連携して水洗化率の向上に取り組む必要がある。
- ### 2. 老朽化の状況について
- ①有形固定資産減価償却率
令和2年度から地方公営企業法を適用したことにより、減価償却累計額が少なく計上されており、類似団体の平均値を大きく下回っている。
 - ②管渠老朽化率
耐用年数を経過した管渠がないため、0%となっている。
 - ③管渠改善率
類似団体の平均値を上回っており、管渠調査の結果に基づき、計画的に実施に合わせた必要な箇所への更新に努める必要がある。

全体総括

経常収支比率や施設利用率は、他の類似団体と同水準となっているが、流動比率と汚水処理原価の改善が課題である。
流域関連市町からの負担単価は、物価高騰の影響も踏まえ、令和5年度から大幅に引き上げることによって、経営基盤の強化が図られる見込みであるが、ストックマネジメント計画に基づく施設の老朽化対策に取り組むとともに、今後とも維持管理費の抑制に取り組んでいく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。